

仮想アースの検討(10)(HP 収載)
ーコンデンサーと抵抗の活用(10)ー

1. 始めに

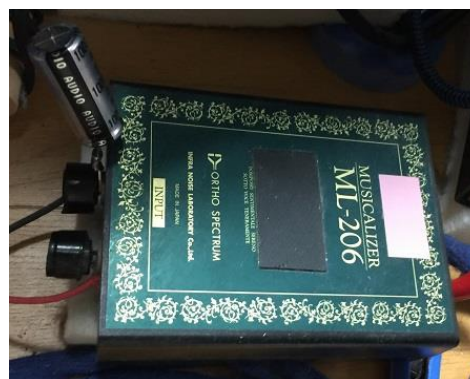
前報(9)に引き続き、コンデンサーをスピーカーケーブルの途中のムジカライザー ML-206 に電解コンデンサーを適用する効果を調べます。

2. コンデンサーと抵抗の試聴方法

現在スピーカーケーブルの途中のムジカライザー ML-206 には、自作の仮想アース 5 号機を適用していますが、これを外し、電解コンデンサーを適用してみます。そのために電解コンデンサー 10000 μ F を Y ラグにセットしたものを 2 個準備し、写真のようにムジカライザー ML-206 のマイナス側にセットすることを試みました。



電解コンデンサー



電解コンデンサー装着 ML-206

試聴は、LINN LP-12 におけるアナログ再生と BPODCH の再生とし、前報(9)で試聴したお馴染みのアナログ盤と BPODCH のアーカイブ再生を試聴します。



電解コンデンサーと自作の仮想アース装着

3. コンデンサーと抵抗の試聴結果

最初の試聴は自作の仮想アース 5 号機を外した条件で、ムジカライザー ML-206 のマイナス側に電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$ の Y ラグを付け外して行います。

バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、ムジカライザーのマイナス端子に電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$ を適用しますと、音の焦点があって、ボウイングの様子が分かりやすくなります。さらに、元の自作の仮想アース 5 号機を加えますと、その傾向はさらに顕著になります。

選帝侯のソナタは、ムジカライザーのマイナス端子に電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$ を適用しますと、ピアノの打鍵と余韻が明瞭になります。さらに、元の自作の仮想アース 5 号機を加えますと、その傾向はさらに顕著になります。

ワーグナーのワルキューレは、ムジカライザー ML-206 のマイナス端子に電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$ を適用しますと、オーケストラの音の分離が向上します。さらに、元の自作の仮想アース 5 号機を加えますと、その傾向はさらに顕著になります。

BPODCH の試聴では、自作の仮想アース 5 号機を付けた条件で、ムジカライザー ML-206 のマイナス側に電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$ の Y ラグを付け外して行い、

上乘せ効果を確認します。

マーラーの3番では、ムジカライザーのマイナス端子に電解コンデンサー10000 μ Fを適用しますと、顕著とは言えませんが、オーケストラの音が緻密になり、大ホールに響きわたる低音の迫力が増して、電解コンデンサーの上乗せ効果が認められます。

リストのピアノ協奏曲1番では、ムジカライザーのマイナス端子に電解コンデンサー10000 μ Fを適用しますと、顕著とは言えませんが、ピアノの打鍵がクリアになり、オーケストラの音が緻密になって、電解コンデンサーの上乗せ効果が認められます。

以上、自作仮想アース5号機に対して電解コンデンサーの上乗せ効果が認められましたので、電解コンデンサーをこのまま残しておきます。

4. まとめ

スピーカーケーブルの途中のムジカライザーML-206のマイナス端子に電解コンデンサー10000 μ Fを適用する効果を認めました。また、自作の仮想アースとの相加的な効果を認めました。

以上